

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

生徒を自立した社会人として送り出すために、社会人としての必要な力を養うとともに、社会に主体的に参画できる人材の育成をめざす。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成

(1) 社会に必要な基礎的な知識・技能の定着を図り、社会人としての常識を身につける

ア 生徒の学力に応じた教育内容を設定し、基礎学力の向上など、確かな学力を身につけさせる。(授業理解度 令和5年度 90%以上にする)

※(H30:86.2% R1:89.5% R2:87.1%)

イ 授業改善への取り組みなどにより授業力の向上を図る。

(2) 思考力・判断力・表現力を育成することにより、集団において適切な意見・行動がとれる力の育成を図る。

ア 総探PTを中心に充実した「総合的な探究の時間」の実施により、課題対応能力や人間関係形成能力の育成を図る。

(3) 自ら主体的に学ぶ姿勢の育成

ア 「学習環境」の確保のために授業規律の確立を図る。

イ 授業やLHR活動などすべての教育活動を通して、「なぜ学ぶのか」について考えさせることにより、生徒の職業観・勤労観の育成につなげる。

## 2 豊かな人間性と「社会の一員」としての自覚の醸成

(1) 自己および他者への理解と自己有用感の育成

ア 特別活動や学校行事の充実を通して、自己有用感を育成し、良好な人間関係づくりを指導する。

イ 活動方法や教員体制の工夫などにより、生徒の自主的な活動である部活動や生徒会活動の活性化に努める。

ウ 「あいさつ運動」の取り組みにより、生徒の人間関係形成能力を養う。

(2) 規範意識の醸成と自己管理能力の育成

ア 規律ある学校生活を通して、基本的な生活習慣の確立をめざす。(年間の生徒登校率を、令和5年度 87%以上にする。)

※(H30:79.4% R1:84.2% R2:87.0%)

イ 選挙権が18歳に引き下げられたことを踏まえ、社会の一員として求められる政治的教養や判断力を計画的に育成する。

(3) キャリアプランニング能力の育成

ア 全学年を通して計画的に進路指導を行うことで、自己実現の意欲を喚起し、進学・就職を希望する生徒の進路決定率を100%になるように努める。

(進路決定率 令和5年度 90%以上にする。)

※(H30:78.6% R1:75.0% R2:78.6%)

イ 試行的就業体験なども含め様々な体験活動を通して、生徒一人ひとりの職業観・勤労観の形成を図る。

## 3 生徒支援と安全安心な学校づくり

(1) 生徒の個に応じた支援と、生徒が自分らしく安心して通える学校づくり

ア 学校全体として健康安全教育や交通安全教育を推進し、生徒および教職員の健康増進と安全確保を推進する。

イ 全教職員が一致した協力体制を構築し、問題事象等には、迅速で適切な対応を図る。

ウ 人権教育を推進し、様々な人権課題の解決に取り組む。

エ 教育相談体制の充実と生徒情報の共有

オ 家庭、地域との連携を推進し、情報発信を積極的に行い、開かれた学校づくりに努める。

## 4 学校運営体制の改善と人材育成

(1) 教職員の学校運営への参画意識の醸成

ア 企画会議及び運営委員会を学校運営の核として位置づけ、学校運営の確実な定着をめざす。

イ 各学年・分掌・委員会が計画的に業務を運営するとともに、各組織間の連携を密にし校務の効率化を図る。

ウ 「将来構想検討チーム」において今後の方向性を検討するとともに、ミドルリーダーの育成と若手教員の学校運営への参画意識の醸成を図る。

(2) 学び続ける教員集団の形成

ア 教職経験の少ない教員を対象とした校内研修「若手教師塾」の実施や教員の自主研修を奨励し、人材の育成を図る。

イ 現場のニーズに即した校内研修を計画的に行うことにより、教員力の向上を図る。

(3) 働き方改革

ア 働き方改革への積極的な取り組みにより、教職員の時間外勤務の軽減を図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年11、12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>☆生徒用で、昨年度より設問項目を1つ(1人1台端末について)増やした。(生徒の評価)</p> <p>昨年度より肯定的な回答(肯定率80%以上)が3項目増え、多くの項目で肯定的な回答が得られた。わかりやすい授業88.1%、先生への質問のしやすさ84.4%、学校のルールを守る92.5%、学校生活での先生の指導88.7%、いじめ対応84.6%、</p>	<p>第1回(6月21日)</p> <p>集合型で行わず、書面開催で実施した。今年度の学校経営計画の内容と重点事項、学校教育計画、各分掌からの取り組み計画などについて、資料を送付し、意見をいただいた。</p> <p>○ 生徒の登校率が年々上昇している点、授業理解度が80%を超えている点な</p>

## 府立布施高等学校 定時制の課程

行事の工夫 87.9%、気軽に相談できる先生 81.8%、進路について考える機会 90.5%、命の大切さ・社会のルールを学ぶ 87.7%、人権意識 84.6%である。また、発表についても数値が大きく上昇（58.7%→78.5%）しており、総合的な探究P Tのこれまでの取り組みの成果が出てきている。しかし、遅刻、欠席についてはまだまだ意識が低い。その中で、遅刻・欠席対応を学年独自でキャンペーンを行ったり、黒板に1週間の欠席・遅刻目標を書き意識させている3年生は他学年に比べると意識は高い数値（87.0%）となっている。学校全体での取り組みとなるように工夫していきたい。

## （保護者の評価）

否定的な項目がなく、全項目で75%を上回っており、学校が信頼されている結果となった。また、授業の楽しさ（76.7%→86.2%）、落ち着いた学習環境（81.5%→92.9%）と学習指導に関する項目や、適切な進路指導（92.9%→93.5%）、進路についての情報提供（89.3%→93.3%）、生命、社会のルールを守る態度の育成（85.2%→91.3%）、いじめ対応（85.2%→92.6%）の人権学習に関する項目、生徒指導の方針（85.7%→92.9%）の肯定率も昨年度より上昇しており、学習指導、進路指導、人権についてのこれまでの指導の成果が評価されている。しかし、わからないと答えた回答も10%程度あり、授業参観や学校行事への参加については低くなっていることから、保護者への働きかけや情報発信にさらに努めていきたい。

## （教職員の評価）

教育相談体制（88.9%）、キャリア教育（83.3%）、学校行事（94.4%）、生徒会活動（88.9%）、情報の周知（83.3%）教材の精選（94.4%）、学習指導（83.3%）、規範意識（83.3%）、人権尊重（94.4%）、ICT活用（94.4%）、ケース会議（88.9%）などが高い項目である。昨年度と比較して、特に大きく改善されたのが、人権尊重の生徒指導（66.7%→94.4%）であるが、人権に関する話し合いは（33.3%→61.1%）にとどまっており、人権教育推進委員会を中心に日常的な人権に関する議論の必要性がある。また、准校長のリーダーシップについては6割が否定的な意見であり、学校運営への意見反映や適正な分掌等の分担についての評価が大幅に下がった。教員間での連携、相互理解についても大きく下がっており、来年度は、風通しのよい職場環境に心がけ、組織的に対応できるようにしたい。

どから、生徒に寄り添った教育がなされていることが伺える。引き続き、生徒の実情に沿った教育をしていただきたい。

○ 特に外国籍の生徒についての学習指導（日本語指導等）や生活面での指導については、高く評価できる。今後は、卒業後の就職先や進学先決定、日本の社会の一員として、安心・安全な生活が送れるような指導に取り組んでいただきたい。

○ 進路指導がしっかりなされており、学校斡旋就職、進学ともに堅調である。  
○ 学校教育計画をみると、1人の教員が複数の職務を兼任しており、教員の負担軽減に向けた取り組みを一層進めていく必要がある。

## 第2回（10月22日）

第1回授業アンケート（7月実施）、生徒生活実態アンケート（7月実施）の結果と考察、学校教育自己診断（11月実施予定）について説明を行い、その後、各分掌より取り組みの進捗状況について資料を示して説明を行った。

○ 教務部 令和3年度使用教科書一覧を提示し承認を得た。1人1台端末の用途のイメージがつかないなど、使用方法についての質問があった。学習支援員や教育サポーターを活用した個に応じた学習支援の取り組みについての説明に対しては、高く評価できるという意見をいただいた。新教育課程表の作成については、新カリキュラムの「ビジネス○○」の教科が興味深い、教科書がないので教材作成など、先生方の負担が増えることへの懸念について言及された。

○ 生徒指導部 警備巡回当番を廊下当番に追加補充し2名体制にしたことや学校パンフレットを新しく作り直したこと等、取り組み状況について報告した。授業中の校外への外出については年々減少していること、居場所としての図書館のありかたなどの課題についても報告を行った。中抜けはなぜしているのか、そのまま帰宅するのかという質問があった。

○ 進路指導部 求人数については回復傾向にあり、オンライン説明会やオンラインを活用した面接等の実施が行われていることの説明をしたところ、企業とのオンライン面談は教育的効果があるのかという質問があった。効果はあるが、やはり生徒は分かりづらいと言っている。職場見学もできるだけ行かせて頂けるようお願いしていると回答した。

## 第3回（1月21日）

第2回授業アンケート（12月実施）、学校教育自己診断（生徒用、保護者用、教職員用11月～12月実施）の結果と考察、各分掌の今年度の取り組み結果の報告を行った。令和3年度学校評価と令和4年度学校経営計画について提示し、承認をいただいた。資料を丁寧に作成され、説明していただいたことで、学校全体の取り組み状況が良好であることがわかると評価いただいた。各分掌の取り組みについて、委員から次のような意見をいただいた。

○ 教務部 4月に実施している基礎学力検査の結果から生徒の学力の上昇が見られることの説明を行ったところ、評価問題についての質問が出た。次年度、新教育課程の実施や観点別評価実施に向けて、業務量が増えることと思うが、対応をお願いしたい。1人1台端末の効果的な活用について、どの場面でどう活用していくのか具体的に示していくことが必要ではないかと指摘があった。

○ 生徒指導部 質問として、次の3点が出た。

①授業中の校外への外出が減少したことについては、巡回当番を強化したことで、個々の生徒が自覚するようになったのか。

②喫煙指導数が1名であることについては、未成年であるということだが、成人の生徒に対しても同じように指導しているのか。

③不登校経験のある生徒に対して、SCやSSWの活用を考えてほしい。どのように活用しているのか。

部活動について、活性化してきていることは評価できるとの意見をいただいた。

○ 進路指導部 進路指導の取り組みについては、学校教育自己診断の結果からも良好であることがわかる。よくやっていたと評価いただいた。

## 府立布施高等学校 定時制の課程

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R 2 年度値]	自己評価
1 確 か な 学 力 の 育 成	<p>(1) 基礎的な知識・技能の定着を図り、社会人としての常識を身につける ア 基礎学力の向上 イ 授業力の向上</p> <p>(2) 集団において適切な意見・行動をとれるようになる ア 課題対応能力や人間関係形成能力の育成</p> <p>(3) 自ら主体的に学ぶ姿勢の育成 ア 学習環境の確保のための授業規律の確立</p> <p>(4) 新学習指導要領実施に向けた取組み ア 観点別評価の作成と試行</p>	<p>(1) ア・年度当初に布施定独自の「学力診断テスト」を実施することで生徒の学力を把握し、ゼロ時限などの活用により基礎学力の底上げを図る ・少人数展開・T Tなどの授業を継続し、生徒の個々の状況に応じた学習を支援する。 ・オンラインP Tを中心に「1人1台端末」の導入に向けた校内体制の整備に取り組む。</p> <p>イ・「授業力向上P T」を立ち上げ、学校全体で授業力の向上を推進し「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす。 ・公開研究授業や校内研修を実施し、個々の教員の授業力の向上を図り、わかりやすい授業をめざす。</p> <p>(2) ア・総探P Tを中心に、4年間(3年間)を視野に入れた系統的な計画と教材等の開発を行うことによりで課題を発見していく能力やコミュニケーション能力を育む。</p> <p>(3) ア・授業中のスマートフォンの使用や私語、飲食などの指導について全教員の共通理解を深め、指導の徹底を図る。</p> <p>(4) ア・カリキュラム委員会に「観点別評価検討チーム」を設置する。 ・チームが中心に各教科の観点別評価の作成及び試行をサポートし、令和4年度からの新学習指導要領本格実施に備える。</p>	<p>(1) ア・教職員学校教育自己診断「到達度の低い生徒に対する学習指導」肯定率80%以上 [80%] ・授業アンケート「知識・技能が身についた」肯定率85%以上 [85.0%]</p> <p>イ・授業アンケート「授業理解度」肯定率90%以上 [87.1%] ・生徒学校教育自己診断「授業はわかりやすい」肯定率90%以上 [88.6%]</p> <p>(2) ア・生徒学校教育自己診断「授業で発表する」肯定率65%以上 [58.7%]</p> <p>(3) ア・生徒学校教育自己診断「授業規律」肯定率75%以上 [69.1%]</p>	<p>(1) ア・教職員学校教育自己診断「到達度の低い生徒に対する学習指導」の肯定率は83.3%であった。(○) ・授業アンケート「知識・技能が身についた」の肯定率は82.8%であった。(△) イ・授業アンケート「授業理解度」の肯定率は85.8%であった。(△) ・授業力向上の取り組みを学校全体で行い、管理職による授業見学2回、教員全員が公開授業を実施し、相互に見学を行った。公開模擬授業2回、公開研究授業2回、校内研修を5回実施したが、生徒学校教育自己診断「授業はわかりやすい」の肯定率は88.1%であった。(△) 来年度も引き続き授業改善に取り組んでいきたい。</p> <p>(2) ア・1年生は人前で発表、2年生は情報収集しまとめる、3、4年生はわかりやすい発表を目標にし、計画的に教材開発を行った。総合的な探究の時間では1年生で1回、2～4年で2回発表を実施した。生徒学校教育自己診断「授業で発表する」肯定率は78.5%であった。(◎)</p> <p>(3) ア・生徒学校教育自己診断「授業規律」の肯定率73.9%であったが、廊下当番を増やし、授業中のスマホ指導、私語、飲食等の徹底を図り、昨年度より指導回数は大幅に減少した。(○)</p> <p>(4) ア・観点別評価検討チームが中心となり、2、3学期に試行を2回実施した。各教科からのパフォーマンス課題、主体的に取り組む態度の評価について全体共有し、研修を行った。(○)</p>

## 府立布施高等学校 定時制の課程

<p>2 豊かな人間性と「社会の一員」としての自覚の醸成</p>	<p>(1) 自己および他者への理解と自己有用感の育成 ア 行事や生徒会活動、部活動などの活性化と生徒が主体となる活動の支援 イ 「あいさつ運動」による人間関係形成能力の育成</p> <p>(2) 規範意識の醸成と自己管理能力の育成 ア 学校の教育活動を通しての規範意識の醸成 イ 基本的な生活習慣の確立 ウ 社会の一員として求められる政治的教養や判断力の育成</p> <p>(3) キャリアプランニング能力の育成 ア 全学年を通しての計画的な進路指導による職業観・勤労観の確立 イ 試行的就業体験などによる職業観・勤労観の形成</p>	<p>(1) ア・様々な学校行事を通して仲間意識を育み、学校への帰属意識を高める。 ・学校行事やLHR、総合的な探究の時間において生徒に役割を持たせるなど、自己有用感を育む機会を積極的に作る。 ・部活動が居場所となるよう活動日の確保や顧問体制の整備を行うとともに、各集会にて部活動の紹介や生徒秋季発表大会の紹介などを実施する。 ・HPや准校長ブログなどを利用して生徒会や部活動の活動状況を積極的に発信し参加啓発を促す。 イ・校内において、教員が挨拶を励行することにより生徒に挨拶の習慣付けを行うとともに登下校時の「あいさつ運動」の取組みを継続して行う。</p> <p>(2) ア・学校のすべての教育活動を通じた規範意識の醸成を図るため、教員集団の意識改革を行う。 イ・欠席・遅刻・早退・欠課（中抜け）の防止。 ウ・社会科の授業だけでなく、教育活動全般において政治的教養や社会の一員として求められる判断力について育成を図る。</p> <p>(3) ア・分掌等運営シートを活用しながら学年との連携を深め、4年間(3年間)の系統的な進路指導の計画を図る ・進学・就職希望者に対する進路指導の早期からの充実を図るとともに、ハローワークや外部機関との連携を行い、希望者の卒業時の進路決定率を高める。 イ・アルバイト指導やインターンシップなどの就業体験を通して、就職後の離職率の防止を図る。</p>	<p>(1) ア・生徒学校教育自己診断「行事が工夫されている」肯定率を78%以上 [75.0%] ・生徒学校教育自己診断「学校へ行くのが楽しい」肯定率70% [58.3%] ・部活動の加入率50%以上 [54.8%] ・教職員学校教育自己診断「部活動の活性化」肯定率60%以上 [47%] ・教職員学校教育自己診断「生徒会活動を通して主体的に活動できるよう学校全体で支援」肯定率75%以上 [73%]</p> <p>(2) ア・教職員学校教育自己診断「キャリア教育推進のため、教育活動全般にわたり、生徒の規範意識の醸成に取り組んでいる」肯定率70% [60%] イ・年間登校率80%以上 [87.0%] ・年間遅刻数(のべ人数)昨年度以下をめざす [2421人] ・中退7人以下をめざす [7人] ・再履修(留年)3人以下をめざす [3人] ・長欠(30日以上欠席)(人)30人以下をめざす[30人] ウ・教職員学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ」肯定率80%以上を維持 [82%]</p> <p>(3) ア・授業アンケート「進路や生き方について考える機会がある」肯定率90%を維持 [90.9%] ・教職員学校教育自己診断「勤労観・職業観を持つ系統的な進路指導」肯定率70%以上 [67%] ・就職希望者・進学希望者の進路決定率80%以上 [78.6%]</p>	<p>(1) ア・新型コロナウイルス感染症の影響下であり、時期の変更もあったが、教職員の努力により生徒学校教育自己診断「行事が工夫されている」の肯定率は87.9%であった。(◎) ・生徒学校教育自己診断「学校へ行くのが楽しい」の肯定率は60.3%であった。来年度は、仲間意識を育めるようなさらなる取り組みを行っていく。(△) ・部活動の加入率は50%であった。(○) ・教職員のサポート体制の結果、教職員学校教育自己診断「部活動の活性化」は、72.2%と大幅に改善された。准校長ブログにおける活動状況の発信も続けていく。(◎) ・教職員学校教育自己診断「生徒会活動を通して主体的に活動できるよう学校全体で支援」の肯定率は、88.9%で大幅に上昇した。毎週会議を行い、生徒会が中心となってあいさつ運動や清掃活動を企画運営するとともに、学校行事において中心となって活動できた。今後も継続して活動していく。(◎)</p> <p>(2) ア・廊下当番を増やし、生徒の授業規律の徹底を図った。その中で教員間の生徒について話題も多くなり、教職員学校教育自己診断「キャリア教育推進のため、教育活動全般にわたり、生徒の規範意識の醸成に取り組んでいる」の肯定率は、83.3%と大幅に改善した。(◎) イ・廊下当番を増やし規律指導を行うとともに、登校時に複数の教員が入口に立ち、挨拶とともに遅刻者への注意喚起を行った。 ・年間登校率88%(○) 年間遅刻数2019人(○) ・中退6人(○) ・再履修(留年)5人(△) ・長欠38人(△) ウ・教職員学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ」の肯定率は、77.8%であったが、保護者学校教育自己診断「学校は、子どもに生命を大切にす心や社会のルールを守る態度を育てようとしている」の肯定率は91.3%(R2:85.2%)、生徒学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ」は87.7%(R2:80.0%)であった。(○)</p> <p>(3) ア・生徒学校教育自己診断「進路や生き方について考える機会がある」の肯定率は90.5%であった。(○) ・教職員学校教育自己診断「勤労観・職業観を持つ系統的な進路指導」の肯定率は72.2%であった。(○) ・就職希望者・進学希望者の進路決定率は、76.5%であるが、教職員学校教育自己診断「興味・関心、適性に応じたきめ細かい進路指導」の肯定率はR2年度66.7%から83.3%と大幅に上昇した。今後もきめ細かく個別対応をしていく。(△)</p>
--------------------------------------	--	---	--	---

## 府立布施高等学校 定時制の課程

<p>3</p> <p>生徒支援を中心とした安全安心な学校づくり</p>	<p>(1) 生徒の個に応じた支援と、生徒が安心して通える学校づくり</p> <p>ア 健康安全教育の推進(生徒および教職員の健康増進と安全確保)</p> <p>イ 問題事象等への迅速で適切な対応</p> <p>ウ 人権教育の推進(様々な人権課題への取組み)</p> <p>エ 教育相談体制の充実と生徒情報の共有</p> <p>オ 家庭、地域との連携推進と開かれた学校づくり</p>	<p>(1)</p> <p>ア・本校の特色やニーズに合う健康安全教育の実践を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症や食物アレルギーへの対応について、校内研修等を通して教職員の意識の向上を図る。</li> <li>・災害時の避難行動について理解できるよう、リアルな避難訓練を実施するとともに、防災HRにより生徒の意識の向上を図る。</li> <li>・災害時の対応について、全日制教員との連携を推進する。</li> <li>・緊急時も含め、生徒や保護者、教職員との連絡体制の確立を図る。</li> </ul> <p>イ・学年が中心となり分掌が連携する体制を確立することにより、問題事象の防止に努めるとともに生徒の支援につなげる。</p> <p>ウ・4年間(3年間)を意識した人権HRを計画するとともに分掌等運営シートを活用して「見える化」し系統的な人権学習につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員を対象とした校内研修等の実施により、人権問題への理解を深める。</li> </ul> <p>エ・支援コーディネーターを中心にSCやSSWと連携し教育相談の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生活支援カードやスクリーニングシートを活用し、生徒情報の共有に努め、必要に応じて個別の教育支援計画の作成を行う。</li> </ul> <p>オ・HPや「さくら連絡網」を活用し家庭との連携を推進するとともに保護者会活動の活性化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中高連絡委員会を中心に中学校への情報共有を行う。</li> <li>・「布施定だより」の定期的な発行配布やHPの充実による情報発信を行う。</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒のHR出席率の向上 80%以上 [78%]</p> <p>イ・年間の懲戒件数昨年度以下をめぐす [7件]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員学校教育自己診断「生徒指導の方針についてコンセンサスがとれている」肯定率 65% [53%]</li> </ul> <p>ウ・生徒学校教育自己診断「人権意識が高まる」肯定率 80% [79.3%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員学校教育自己診断「人権尊重に関する課題や指導方法について全教職員で話し合っている」肯定率 60% [33%]</li> </ul> <p>エ・生徒学校教育自己診断「先生に気軽に相談できる」肯定率 80% [79.0%]</p> <p>オ・「布施定だより」の発行</p>	<p>(1)</p> <p>ア・健康安全教育は計画通り実施した。生徒のHR出席率は76.5%であった。4年生はHR欠席時には補習を行い、HRの重要性を生徒に意識させた。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月に食物アレルギー研修を実施し理解を深めた。</li> <li>・当日まで災害の想定がわからないリアルな避難訓練を実施、蓄光テープの利用や停電時の対応の訓練も行った。また、防災HRで災害グッズを作成し、緊急時対応の認識を深めることができた。</li> <li>・全日制の避難訓練にも参加し、昼に災害が起こった時の対応を共有できた。</li> <li>・緊急時の連絡網の保護者加入率の上昇(47%→71%)</li> </ul> <p>イ・年間の懲戒件数(2件)(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題事象発生時の連携に努めたがあまりうまく機能せず、教職員学校教育自己診断「生徒指導の方針についてコンセンサスがとれている」の肯定率は41.2%であった。来年度は連携体制を確実に作っていく。(△)</li> </ul> <p>ウ・4年間を見据えた人権HR計画を策定し、実施した。生徒学校教育自己診断「人権意識が高まる」の肯定率は84.6%であった。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員学校教育自己診断「人権尊重に関する課題や指導方法について全教職員で話し合っている」の肯定率は61.1%であった。生徒の人権課題に迅速に向き合うために教職員対象の人権研修を3回行った。(○)</li> </ul> <p>エ・生徒学校教育自己診断「先生に気軽に相談できる」の肯定率は81.8%であった。SC、SSW(チーフSSWにも会議に参加していただいた)と連携してアセスメント会議を行い、生徒情報の共有を行い、生徒に寄り添った支援ができた。(○)</p> <p>オ・HPや「さくら連絡網」を活用し、情報発信に努めた。准校長ブログにより本校の生徒や教員の頑張っている様子を発信した。(103回)(R2:5回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「布施定だより」を8号発行し、中学校へ送付。また、パンフレットを刷新し、全教員による中学校訪問を拡充した。(R2:3校→R3:48校)(◎)</li> </ul>
<p>4</p> <p>学校運営体制の改善と人材育成</p>	<p>(1) 教職員の学校運営への参画意識の醸成</p> <p>ア 運営委員会を学校の核とした学校運営の確実な定着</p> <p>イ 分掌等会議の充実と組織間の連携を図った公務の効率化</p> <p>ウ ミドルリーダーの育成と教職経験の少ない教員の参画意識の醸成</p> <p>(2) 学び続ける教員集団の形成</p> <p>ア 教職経験年数の少ない教員を対象とした校内研修などによる人材育成</p> <p>イ 校内研修の計画的な実施</p> <p>(3) 働き方改革に向けた取組み</p> <p>ア 時間外勤務の縮減</p>	<p>(1)</p> <p>ア・運営委員会が学校運営の中心となり校内の諸課題について検討や立案、調整の場とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議などの場において、組織の位置づけについての周知を図り、組織的な運営の重要性の認識を高める。</li> <li>・教頭、首席及び行政職も参加した企画会議を行う。</li> </ul> <p>イ・分掌運営等シートを活用し、各分掌や学年、委員会などの意見を組織間で迅速に情報共有を図り、効果的な会議の運営を図る。</p> <p>ウ・「将来構想検討チーム」で今後の布施定の方向性を検討するとともにミドルリーダーの育成と教職経験年数の少ない教員の学校運営への参画意識の醸成を図る。</p> <p>(2)</p> <p>ア・教職経験年数の少ない教員対象の校内研修「若手教師塾」の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他校の研修などへの積極的な参加と研修内容を伝達する場の設定</li> </ul> <p>イ・企画会議、運営委員会、将来構想検討チームなどを通して研修の精選や学校のニーズに合う研修の計画を行う。</p> <p>(3)</p> <p>ア・在校等時間の管理と教職員への周知により、時間外勤務の抑制と教職員の意識改革に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外勤務の多い教職員に対し必要に応じた指導や助言を行うとともに、月1回の産業医の訪問時に個別の面談を実施する。</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア・企画会議の定例での実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員学校教育自己診断「各分掌や各学年の連携」肯定率 65% [53%]</li> </ul> <p>イ・教職員学校教育自己診断「教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担」肯定率 60% [53%]</p> <p>ウ・教職員学校教育自己診断「学校運営に教職員の意見が反映されている」肯定率 80% [73%]</p> <p>(2)</p> <p>ア・教職員学校教育自己診断「経験年数の少ない教員を学校全体で育成」肯定率 60% [40%]</p> <p>イ・教職員学校教育自己診断「校内研修の計画的実施」肯定率 65% [60%]</p> <p>(3)</p> <p>ア・月ごとの時間外勤務状況を教職員一人ひとりに提示</p>	<p>(1)</p> <p>ア・企画会議を定例で実施し、諸課題の検討を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員学校教育自己診断「各分掌や各学年の連携」の肯定率は、27.8%であった。来年度は組織としての連携ができるような体制を組んでいく。(△)</li> </ul> <p>イ・教職員学校教育自己診断「教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担」の肯定率は33.3%であった。人数が少ない中、力が発揮できるように分担を行っていく。(△)</p> <p>ウ・教職員学校教育自己診断「学校運営に教職員の意見が反映されている」の肯定率は、33.3%であった。首席を軸に将来構想を行ったが、メンバーの意見のすり合わせができなかった。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1月に職場改善に向けた研修を実施し、来年度の計画に生かしていく。</li> </ul> <p>(2)</p> <p>ア・「若手教師塾」を17回実施した。</p> <p>教職員学校教育自己診断「経験年数の少ない教員を学校全体で育成」の肯定率は50%で目標には達しなかったが、昨年度よりは改善した。他校の授業力研修へは延べ6校に18人が参加するなど積極的に取り組み、また、初任者の模擬授業や研究授業を他校の教員を交えて行うことができた。(△)</p> <p>イ・教職員学校教育自己診断「校内研修の計画的実施」の肯定率は61.1%であったが、現在の課題に即し充実した研修になるように工夫できた。観点別評価やGIGAスクールの研修も入り、研修の回数が増えた。来年度はより精選していく。(○)</p> <p>(3)</p> <p>ア・毎月、教職員一人ひとりに個人の時間外勤務時間を配付し、時間外勤務について意識をさせた。だが、観点別評価の試行や1人1台端末の導入により業務量が増え、時間外勤務の縮減にはつながらなかった。来年度は、業務の平準化、分担体制の見直しを図っていく。</p>